



発行所: NPO法人いしかわ介護ボランティアセンター
発行責任者: 宅本 門示
編集者: 山下 恵三 八田 真奈美

〒920-0024 金沢市西念1丁目12番22号 労済会館2階
電話(076)222-3337 FAX 222-3374
E-mail ikvc@isis.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.sawayaka-u.jp/index.html>

謹賀新年

2016年元旦

新年のごあいさつ

～ 私たちのめざす社会 ～

あけましておめでとうございます。

社会の主役は誰でしょうか。言うまでもなく国民(市民)です。市民らしく尊厳のある暮らしが送れるように、寛容の心をもって、社会を導いてゆくのが政治家です。私は、寛容とは「思いやりの器



理事長 澤 信俊

量」のことだと考えています。しかし、今の日本に寛容の哲学をもった政治家がいったい何人いるでしょうか。消滅可能性都市、限界集落、限界マンション、子どもの貧困、貧困の連鎖、老人漂流社会、親子共倒れ等々、格差社会の象徴的な事象が表れています。

こうした中、昨年政府は「新・三本の矢の的」として、第一の的～GDP600兆円～、第二の的～希望出生率1.8～、第三の的～介護離職ゼロ～を目標として掲げ、確かな経済の好循環をうみ出し、長く継続することで、50年後に人口一億人が維持できるとしています。また、一億総活躍社会では『若者も高齢者も、女性も男性も、障害や難病のある方々も、一度失敗を経験した人も、国民一人ひとりが、家庭で、地域で、職場で、それぞれの希望が叶い、それぞれの能力を発揮でき、それぞれが生きがいを感じることができる』と提唱しています。

しかし、何もかも市場原理にゆだねる社会では、この提唱もむなしく耳元を通り過ぎるだけで、市民らしく尊厳のある暮らしは困難です。福祉、医療、介護、教育、環境の分野は、市場原理に馴染まないもので、社会的共通資本として、社会が責任をもって対応しなければならないのです。ボランティアは、社会的共通資本を補完することを目的にした活動であって、そこに本来的なボランティアの役割があるのです。

本年も引きつづき、この「ボランティア」を大切にして活動したいと思います。

「年末餅つき」で高齢者を慰問

昨年12月12日(土)、地域密着型特別養護老人ホーム花小町もろえ(金沢市諸江町中丁154-1)にて、恒例の年末餅つき大会を開催しました。ホールに詰めかけた施設利用者約20名の前で年末の風物詩である餅つきを披露し、おおいに喜んでいただきました。さわやかUの役職員、ボランティア会員に加え、連合石川青年女性委員会からも参加をいただき、総勢29名で施設利用者を慰問するとともに互いの友好を深める一日となりました。



西野さんが美声を披露



施設スタッフも元気に餅つき

当日は、穏やかな日のもと、午前9時頃から準備を開始しました。

餅つきの前に、西田副理事長が施設利用者の皆さんに「お元気ですか？」と気さくに声をかけ「今日一日を皆さんと一緒に楽しみたい」と挨拶しました。

餅つき準備のさなかから続々とホールに集まった利用者さんが、餅つきの様子に目を輝かせています。さわやかUの役職員やボランティア会員、連合石川の青年たち、施設スタッフの面々が次々と杵をふるいます。餅つきと並行して、青年女性委員会の西野委員長が童謡などの歌声を披露し、利用者さんをなごませてくれました。つきあがった餅はきな粉、あん子、大根おろしをまぶし、また正月飾り用の『鏡餅』3セットを作り施設に贈りました。

餅つきを終え、澤理事長が閉会の挨拶を述べ、利用者さんからは「楽しかった。ありがとう」とお礼の言葉をいただきました。その後、ボランティア参加者でつきたての餅をいただきながら歓談したり、施設を見学させていただいたりして、この日の活動を終わりました。

後日、施設より丁寧なお礼状をいただきました。

落書き清掃ボランティアに初参加

昨年11月7日、金沢地域ライフ・サポートセンターより呼びかけられた「落書き清掃ボランティア」にさわやかUから3名が参加しました。豎町周辺の落書き消しに精をだされた参加者より感想が寄せられました。

「金沢地域ライフ・サポートセンター」の呼び掛けによる「さわやかU」の積極的賛同でのお誘いで初めての落書き消しの参加をしました。以前から市内の落書きについては知っていましたが、どういう状況かは知りませんでした。

サポートセンターの方による事前説明と道具の使用方法、現場での消し方を見せて頂きいざ作業開始！

最初は「なんて悪戯をする奴らだ。バカ者どもが」と思いながらつい怒りの感情で力任せに行い、直ぐ手や腕が疲れてしまい閉口しましたが、少しずつ要領も分かって来て隣の人と雑談を交える余裕も出てきました。

落書きに使ったペイント材料により消え方も異なり、消し方に苦労する事もありました。消す事により地肌が表れて「かえって落書きしたようになった様で」これで良いのかと思う所もありました。中には消えない所もあったようです。

建物の持ち主の方が来られて、「以前にも落書きされ消したんですがまた落書きされました」とお話しされ、お礼の言葉を言われ、お茶の差し入れ迄して頂きこちらが恐縮しましたが、幸い雨にも合わずに作業を終えることが出来ました。少しの箇所しか出来ませんでしたが、やった分だけきれいになったと思えば心地良い疲労を感じながらも少しうれしい気分になった午前中のボランティアでした。

さわやかUボランティア会員 小川正也



作業前



作業後

全国ボランティアフェスティバルに参加

昨年11月21、22日、「第24回全国ボランティアフェスティバルふくしま」が福島県郡山市のビッグパレットふくしまなどで開催され、さわやかUから運営委員の太田さん、三津井さん、山下マネージャーが参加しました。

初日、開会式あとの飯館村菅野村長の基調講演では、東電福島第一原発の事故のあと全村避難が続くなか、村で合言葉にしてきた「まदै」の精神で村民の絆を守ろうとしていることに触れながら、「成長社会」から「成熟社会」への転換を訴えられました。続くシンポジウムでは、宮城県石巻市での仮設住宅、復興公営住宅での被災者支援活動、東京都豊島区での「子ども食堂」や「無料学習支援」などの地域支援活動が、取り組みへの熱い思いとともに紹介されました。

二日目の分科会には、それぞれの分科会に参加し各々学習を深めました。

移送サービスに新たに回転シート車を導入

さわやかUでは昨年9月に後部座席回転シート車(ダイハツ・アトレー:写真上)を導入しました。これにより、足腰の弱った利用者の乗降が楽になるとともに、以前より車内空間が広くなり、利用者の皆さんから喜ばれています。



従来の車輛は、後部座席をたためば車椅子のまま乗っていただけるものでしたが、2013年3月に「24時間テレビ基金」より車椅子移動車(スズキ・エブリィ:写真下)の贈呈を受けたことにより、リース期間の満了を機に回転シート車に変更することとしました。



より広いニーズに応えることができるようになったことにふまえて、高齢者、障がい者の外出を支援する移送サービスの充実に努めていきたいと思えます。

2015年10月から利用料金を改定

さわやかUでは、一般高齢者移送サービス(高齢者等の通院等)、キャブサービス(車椅子利用者)の利用料金を従来、片道5km未満300円、5km以上500円にて運営してきました。しかし近年、片道10km以上や15km以上利用される方も散見されるようになったことから、下表のように改定することとなりました。

この料金改定は、昨年5月の理事会、6月の通常総会で決定され、福祉有償運送市町共同運営協議会ならびに石川運輸支局の承認を得て、昨年10月1日から実施しています。

距離	料金
片道(自宅等～病院等)5km未満	300円
片道(自宅等～病院等)5km以上10km未満	600円
片道(自宅等～病院等)10km以上15km未満	900円
片道(自宅等～病院等)15km以上	1,200円

◎年会費 1,500円